

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-A-19		更新日	2025/1/31
サイト名		ちゅうじょうせつり 柱状節理断崖に立つ塔高日本一の重要文化財～出雲日御碕灯台 ひのみさき			
基本情報	区分	☒ 有形 ☐ 無形 ☐ その他			
	所在地	出雲市大社町日御碕字秘台原山1478番地			
	指定別	「出雲日御碕灯台」 国指定（指定番号02735）			
	種別	重要文化財			
	指定／登録年月日	2022(令和4)年2月9日			
	管理団体／モニタリング	公益社団法人燈光会出雲日御碕支所 国(海上保安庁) 大山隠岐国立公園			
	周辺施設／アクセス	☒ トイレ ☒ 売店 ☒ 飲食店 ☒ 駐車場(240台程度) ／山陰道出雲ICから車で約30分・JR出雲市駅からバスで約60分「日御碕灯台」下車すぐ			
	留意点				
サイトの解説	歴史・文化	1903(明治36)年に設置された灯台。海面から灯塔の灯火までは63.30m、地面から塔頂まで(塔高)が43.65mあり、石造灯台としては日本一の高さを誇る。日本人の設計になる近代灯台であり、外壁には松江市美保関町で切り出された硬質の石材が用いられている。内壁はレンガ造りで、外壁と内壁の間に空間を作った特殊な二重構造になっている。光度は48万カンデラ、夜間は約40km沖合まで達し、供用開始から一世紀を経た今日も灯台として運用されている。 灯台のある日御碕周辺は「大山隠岐国立公園」に指定されており、海食によって隆起した岩盤や柱状の奇岩、断崖絶壁が連なる景勝地となっている。周辺海岸で見ることができる「柱状節理」は、およそ1,600万年前に流出した溶岩の冷却収縮によってできており、「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」の代表的なスポットにも選定されている。天候がよければ南方に中国山地の連なりや、はるか北方には隠岐諸島も望むことができる。 歴史や文化的な価値の高さから、1998(平成10)年「世界の歴史的灯台百選」、2013(平成25)年「国の登録有形文化財」、2022(令和4)年「国指定重要文化財」に選ばれている。また、2017(平成29)年に一般社団法人日本ロマンチスト協会により恋する灯台にも認定されている。 我が国の技術者による設計として近代産業歴史上、重要な遺産である。周辺の地質が特異であり、地質学的にも重要な自然環境にある。			
	地形・地質、生物・生態等	日御碕灯台は、大規模な流紋岩の火山活動によって形成された溶岩ドームが侵食されてできた海抜約25mの段丘面に建っている。段丘面の形成年代は大社湾南岸に見られる海食段丘との対比からおおよそ10万年前ごろと考えられている。切り立った断崖には柱状節理が垂直に発達し、それらが灯台と見事に調和しているため美しい景観を呈している。とくに、日御碕灯台は島根半島北西端に位置するため海上交通にとって重要な役割を担っている。 また、日御碕周辺の海岸植生は、北限に近い植物種の生育がみられ、海岸といった特殊な立地に成立する植物群落がみられることから、特定植物群落「日御碕海岸の崖地草本群落」に指定されている。			
写真・図等					
		柱状節理に立つ出雲日御碕灯台		入口側から見た出雲日御碕灯台	
参考文献					